

知識は 旅をする

千葉県立東部図書館だより

2020年3月

第67号



『仮名読八犬伝』為永春水(2代目)作、歌川国芳画ほか
(「菜の花ライブラリー」千葉県デジタルアーカイブ)

▼ 「オリパラパネル展示」を行いました



県立美術館・博物館の合同企画展示事業『チバミュージアムフェスタ 2020～千葉県立美術館・博物館展覧会～』－『『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史』－のパネル巡回展示を実施しました。(11月16日～12月15日)

千葉県ゆかりの人々の活躍を軸に、オリンピック・パラリンピックと千葉県における近代スポーツの歩み等について紹介しました。



▼ 展示のご案内

- ・ガラス展示コーナー 4月16日まで展示
「第4回旭いいおか文芸賞「海へ」によせて」
審査委員長の高橋順子氏の著作、「海」の
俳句・詩・エッセイ、写真集等
- ・資料紹介コーナー 4月16日まで展示
「文学賞」

現在は、オリンピック・パラリンピック関連資料紹介コーナーにおいて「プレイバック 1964年」と題して、東部図書館の重点収集分野である文学から、前回の東京オリンピックが開催された1964年のベストセラーや文学賞受賞作を集めて資料を紹介しています。3月19日まで行っています。ぜひご覧ください。

▼ 利用者アンケートを実施しました

令和元年10月27日から11月9日の間、来館された皆様に利用者アンケートをお願いしました。お忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
⇒ 「千葉県立東部図書館 利用者アンケート集計結果」を別項に掲載しました。

▼ 職場体験学習へのご協力ありがとうございました

5月から9月の間、旭市内の小中学校、銚子市内の中学校等、計9校の生徒の皆さんが体験学習をしました。カウンターでの図書の貸出・返却時など、ご協力ありがとうございました。

ホームページ URL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイト URL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

携帯電話機の

QRコードリーダーでアクセスできます→



↑PC・スマホ等の方はこちらへ

桜の本

図書館ぶらり散歩 (48)

『花の色図鑑』

和の花色・洋の花色・中国の花色』

福田邦夫著 講談社 2007 [7573/48]

「桜色」と聞くと、みなさんは桜の花の色を思い浮かべますよね。でも英語の“Cherry”はサクランボの「赤」を表します。このように植物由来の色名は、文化によって、花、果実、葉、染色時の、どの色を表すか違いがあると、この本を読むと分かります。この本は、日本の色名研究の第一人者だった著者が、台湾の大学教授と協力し、和洋中の伝統色名の由来や特色を美しい図や写真を付して解説しています。小型版のため、四季折々、野外に携帯し、実際の花の色と掲載された色見本を比較しながら楽しめる1冊です。

『桜』 蜷川実花著

河出書房新社 2011 [748/713]

我が図書館に所蔵されている桜の本ということで真っ先に思い浮かんだのがこちら！2020年オリパラ組織委員会の理事にも選ばれている写真家、蜷川実花さんの写真集です。表紙・背表紙・裏表紙を全面に使った彼女独特の鮮やかな桜色は書棚に並んでいると素通りできない存在感を放っています。

収録されている写真は全て2011年3月に撮られた桜です。日本中が恐怖・混乱・不安の最中にあるときでも変わることなく咲いていた桜。是非、手に取ってその美しさを感じてください。

『桜の森の満開の下・白痴 他十二篇』

坂口安吾著 岩波書店 2008 [9136/77 27]

満開の桜の下を通るとき、ふと不気味に感じることはありませんか？

妖美な女のグロテスクな欲望を充たすため、人間の首を切り続ける山賊の男。その狂気は次第に退屈に変わり、男は孤独へと飲み込まれていきます。桜の森の満開の下、花びらとともに2人がさらさらと消えていく幻想的なラストシーンが印象的です。どうにも救いのない物語ですが、桜の木以外何も無い、誰もいない空間に、ポツンと1人取り残されてしまったかのような不思議な読後感が残ります。

『桜狂の譜 江戸の桜画世界』 今橋理子著 青幻社 2019 [72102/72]

現代ではほとんど知られていませんが、江戸時代中期から後期にかけて、桜花だけを描く「三熊派」という流派がありました。三熊派の始祖である三熊(みくま)思孝(しこう)は、「日本に生まれた画家ならば桜を描くことが務め」と考え、全国各地の桜を見て回り、博物学的な観点も織り交ぜつつ桜画を描いていました。

この本には、三熊派の桜画や、花を愛した大名・松平定信の桜花図譜がフルカラーで掲載されています。繊細で華やかな桜画を楽しみながら、桜花に魅了された江戸の人々を偲んでみるのはいかがでしょうか。



令和元年度 はつらつライフ講座 報告

テーマ「生活習慣病・糖尿病について」

講師：岡本 莉奈氏（総合病院国保旭中央病院 管理栄養士） 令和元年 10 月 4 日(金)

生活習慣病の一つである糖尿病について、病気の概要や主に食事面からの予防法・治療法についてお話しいただきました。講義中には食生活のチェックテストも行われ、普段の自分の食事が健康的なものか、どの程度糖尿病のリスクがあるか、参加者の方にとって生活習慣を見直すきっかけとなったようです。

アンケートでは、「合併症について改めて聞き、ドキッとした部分があった」「できることから始めて、続けることが大事だということがわかった」「食事の習慣の改善など、ストレスのない程度に行い楽しく食事ができればと思う」と、糖尿病による合併症の怖さを学んだことで、予防のためにも健康的な食事を心がけようと思えた、との感想が多数寄せられました。



令和元年度 歴史講座 報告

テーマ「江戸時代のアウトローと関八州取締」

講師：児玉 憲治氏（千葉県文書館 嘱託職員）

令和元年 11 月 8 日(金)

今回の歴史講座では、江戸時代に関東を拠点として活躍したアウトローと、それを取り締まる役割を担った関東取締出役＝八州廻の実像をテーマにお話しいただきました。

東総地域には、『天保水滸伝』のモデルになった飯岡助五郎や笹川繁蔵などの有名な人物が多いこともあり、地元の地名などが講義の最中にたくさん出てきたことで、今回のテーマもより身近に感じられたようです。講義後の質疑応答では、講師もたじろぐ鋭い質問や、内容をより深く掘り下げるような質問も多数飛び出し、関心の高さがうかがえました。

アンケートでは、「今回の講義をきっかけに、天保水滸伝にも興味を持った」「地域で活躍した人々の歴史をもっと知りたくなった」というような、作品や地域の歴史を学ぶきっかけになったという感想をいただきました。



特別支援学校への訪問読書支援



東部図書館では、東部図書館管内の特別支援学校における読書活動を推進するために、特別支援学校に職員が訪問し、大型絵本を活用した絵本の読み聞かせを中心とする訪問読書支援を行っています。

本年度は5校に訪問し、絵本の読み聞かせのほかに、「わらべうた」を歌ったり、心と体をリラックスさせるために「なかなかはい」などの手遊びを通して、大勢の子どもたちや先生方にお話の世界を楽しんでもらうことができました。いずれの学校の子どもたちもお話を聞いているときの反応はとても良く、「おおきなかぶ」や「へんしん

トンネル」では繰り返しのところを読み手と一緒に声を出してくれる子どもたちがたくさんいました。中には身体表現までしてくれる子どもまでおり、おはなし会は始終、和やかな雰囲気でもち溢れました。おはなし会の終わりには、特別支援学校の子どもたちから手作りのしおりやカード、アクセサリーなどの素敵なプレゼントをいただきました。

来年度も訪問読書支援で特別支援学校の皆さんとお会いできることを東部図書館職員一同、心から楽しみにしております。



【本年度訪問校】

県立東金特別支援学校
県立八日市場特別支援学校
県立銚子特別支援学校
県立飯高特別支援学校
県立大網白里特別支援学校

読み聞かせに使用した主な作品

おおきなかぶ へんしんトンネル どうぞのいす
そらめくんのベッド はらぺこあおむし
花さき山 からすのパンやさん きんぎょがにげた
にじいろのさかな まどからのおくりもの ももたろう

◆今後も県立図書館は学校図書館への支援を通じて、子どもの読書活動を推進していきます。

- 県立図書館の資料は、市町立村図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、公民館図書室等の読書施設にご相談ください。
- 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言

昨年、台風15号・19号や10月25日の大雨により甚大な被害を受けた千葉県は、「千葉県災害復旧・復興に関する指針」を策定し、災害からの復旧と復興に取り組んでいます。平成23年の東日本大震災の津波による被害以降、近年、防災に対する関心が高まってきています。図書館では防災に役立つ本を適宜紹介していきます。

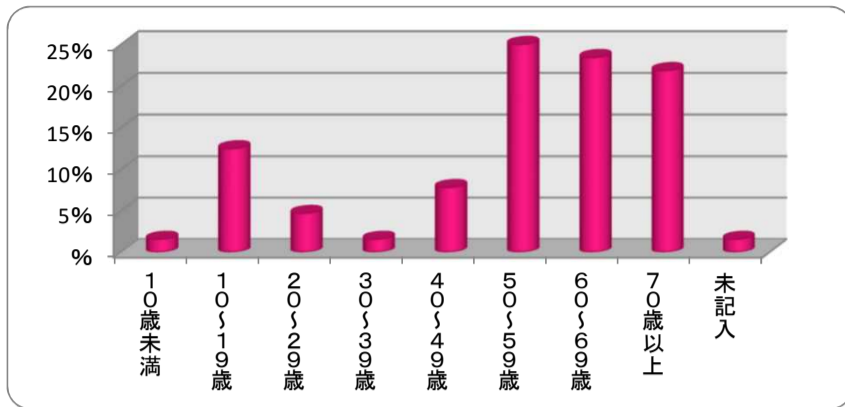
編集・発行：千葉県立東部図書館
〒289-2521
千葉県旭市ハの349
TEL 0479-62-7070
FAX 0479-62-7466

URL : <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

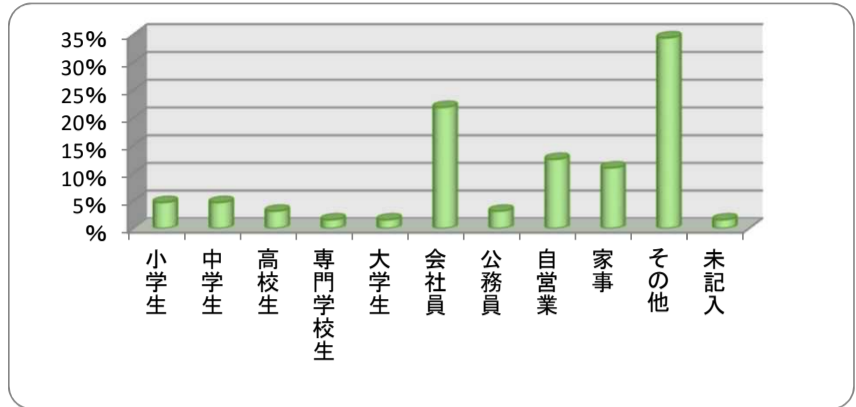
千葉県立東部図書館 利用者アンケート集計結果

令和元年10月27日～11月9日に実施しましたアンケート調査の結果をご報告します。
アンケート回収枚数は64枚でした。アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

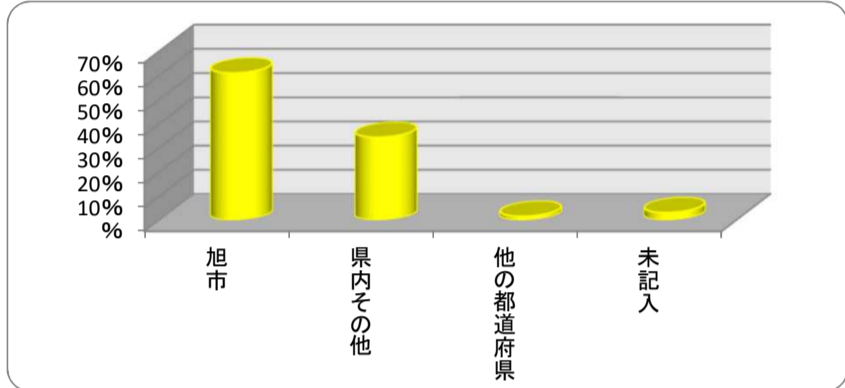
○年齢



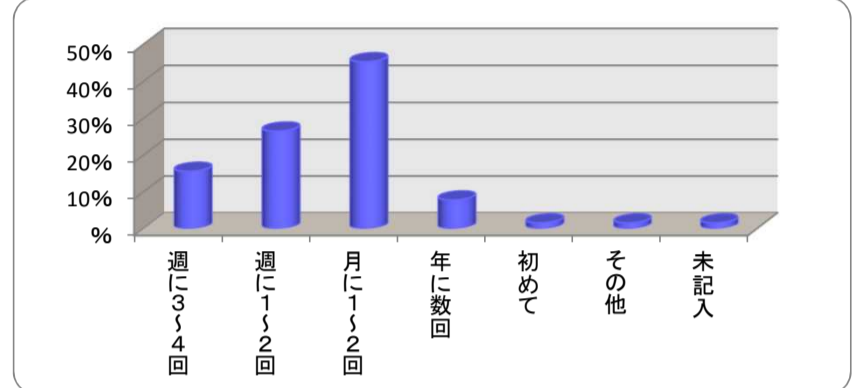
○職業



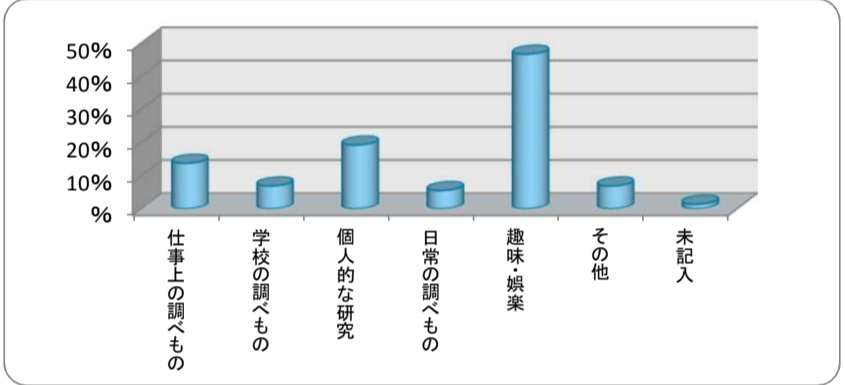
○住所



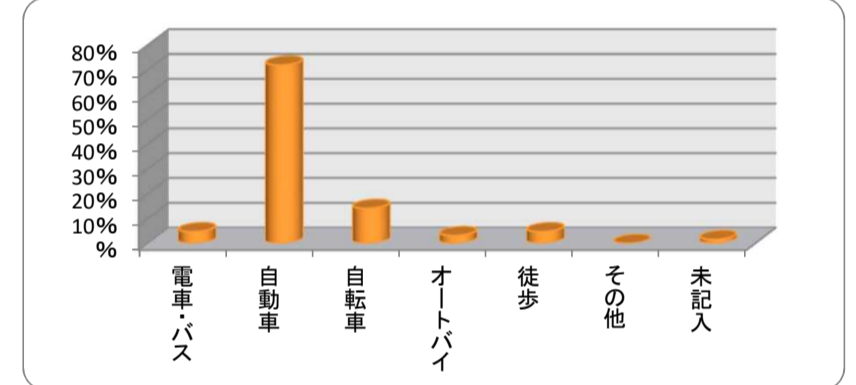
○来館頻度



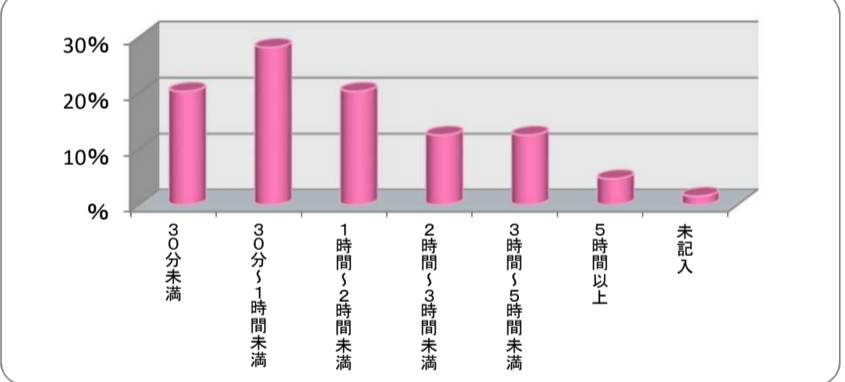
○来館目的



○交通手段



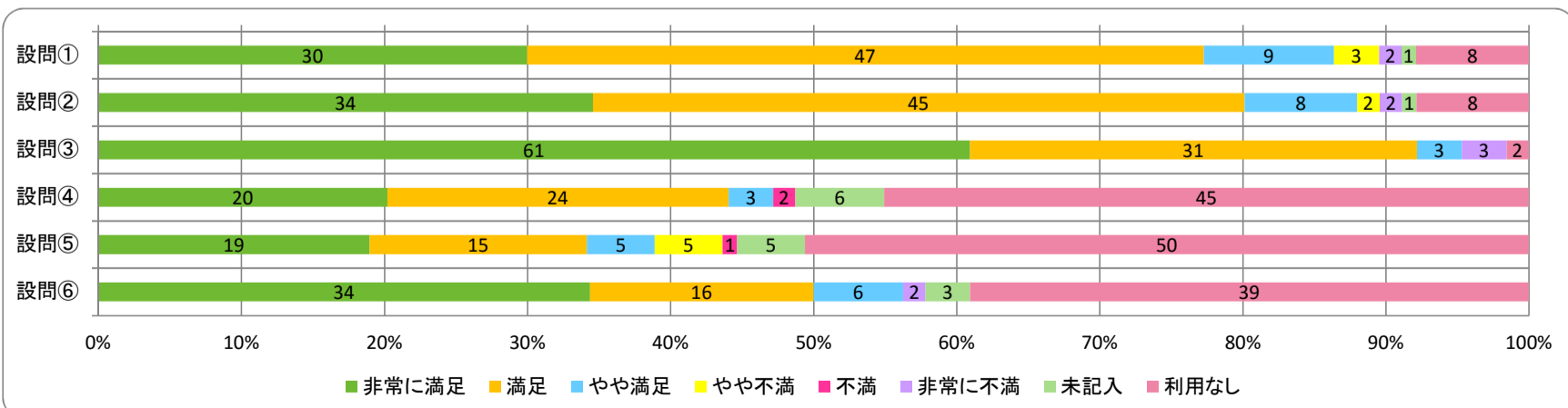
○滞在時間



・回答者の年齢は、50代・60代・70歳以上の方がそれぞれ約2割で、合計すると全体の約7割になります。
 ・来館頻度は月に1～2回という方が最も多く45%、2・3番目に多い週に1～2回・3～4回という方は合計すると42%となります。
 ・来館目的では趣味・娯楽という方が最も多く47%、仕事上・学校・日常の調べものと個人的な研究という方は合わせると45%となります。
 ・滞在時間では30分～1時間未満という方が最も多く28%、30分未満と1時間～2時間未満が同じく20%で次に多く、また、2時間～3時間未満と3時間～5時間未満の方を合わせると、25%になります。

共通設問

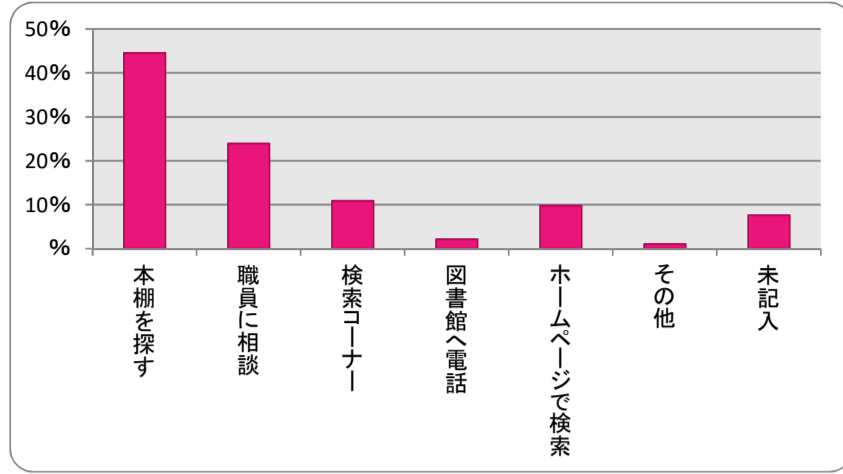
- ①お探しの本(資料)は利用できましたか。
- ②館内案内図や書架の表示、カウンターの表示などは、わかりやすいですか。
- ③職員の対応はいかがですか。
- ④他の図書館からの本の取り寄せの期間や手続きはいかがですか。
- ⑤資料検索機、インターネット等のパソコンでお探しの情報は得られましたか。
- ⑥調べものや探している本のことで、職員に相談したときの回答は的確でしたか。



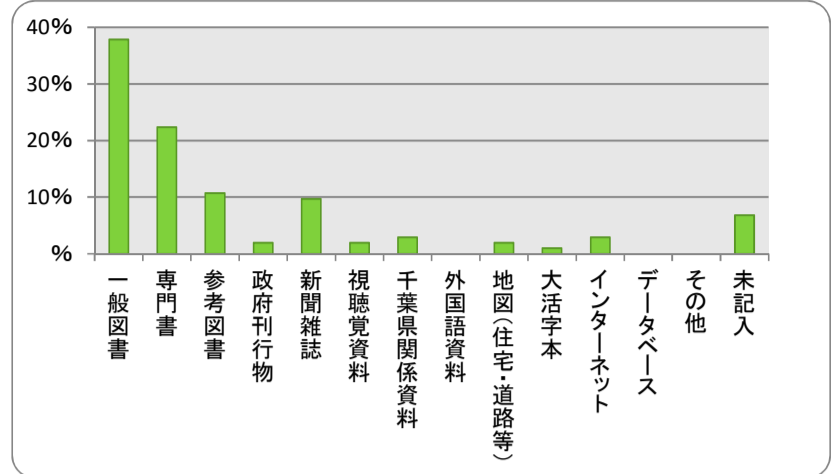
サービス満足度の設問では、職員の対応についての項目が最も評価が高く、9割以上の方に「非常に満足」または「満足」という評価をいただきました。一方、設問4から6では、「利用したことがない」という方も多くみられました。

東部図書館設問

1. 図書館資料は主にどのようにして探しますか。
(複数回答可)

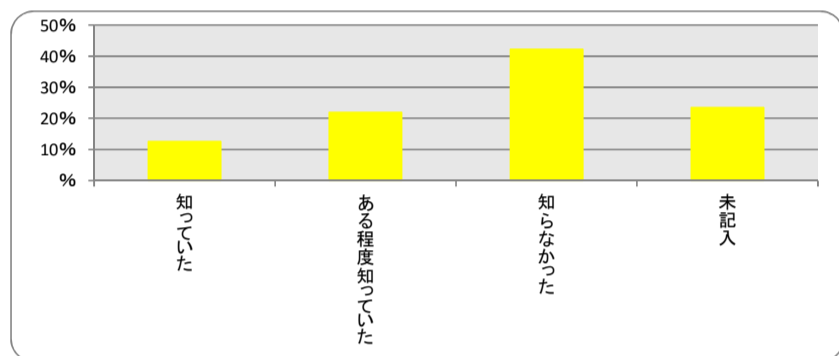


2. どのような図書館資料・情報を利用しますか。
(複数回答可)



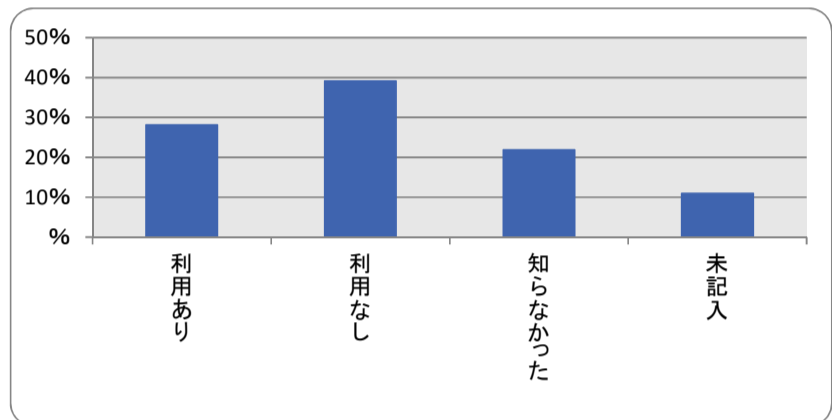
3. 県立図書館では、限られた予算を有効に使うため、各図書館の重点収集分野を以下のように定め、3館での重複を避けた資料収集をしています。

中央図書館: 社会科学など下記以外・千葉県関係・児童資料
西部図書館: 自然科学・技術・工学
東部図書館: 文学・歴史

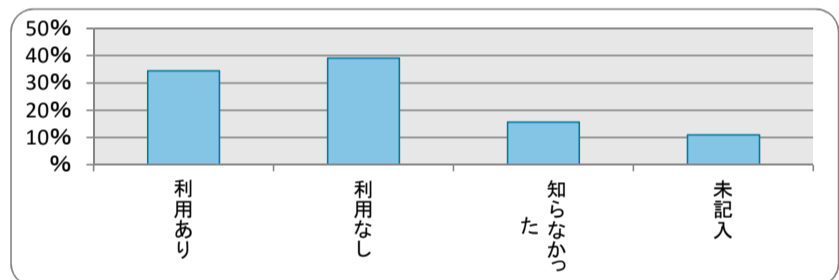


4. 次のサービスを知っていますか。

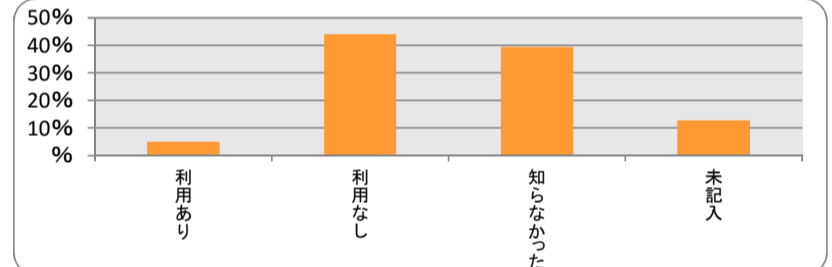
(1) インターネット等で他の図書館の蔵書を調べられる「千葉県内図書館横断検索」



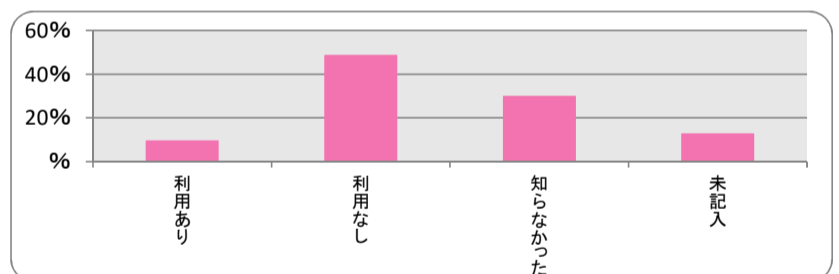
(2) お近くの図書館にない資料の他館からの取り寄せ



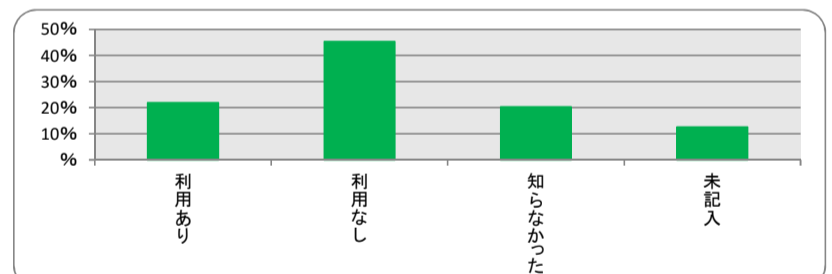
(3) 電子メールによる調査相談「メールレファレンス」



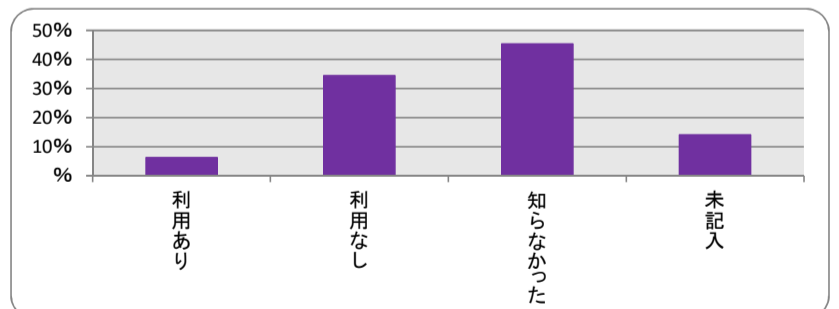
(4) 新聞記事、法律・判例、官報等のデータベース検索



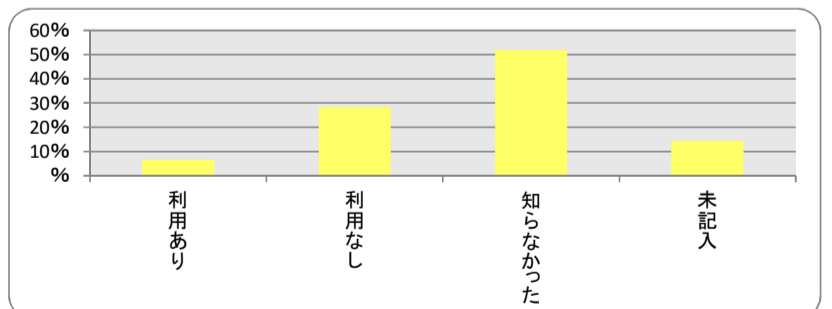
(5) 県立図書館ホームページからの図書予約、貸出期間延長



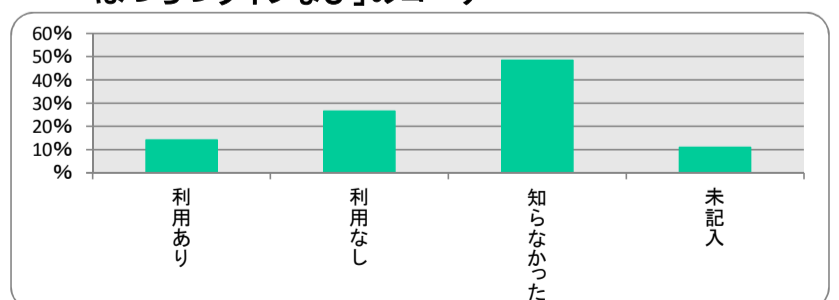
(6) 調べものの手順を紹介したチラシ「パスファインダー」



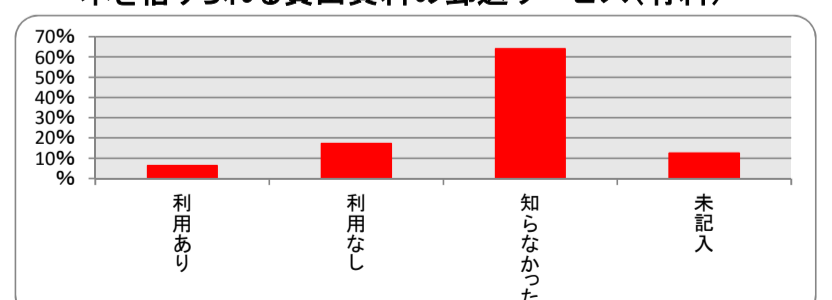
(7) 千葉県立図書館のTwitter(ツイッター)



(8) シニア世代の方の暮らしに役立つ情報を提供する「はつらっライフなび」のコーナー



(9) ご自宅から遠い方、開館時間に来館できない方等でも本を借りられる貸出資料の郵送サービス(有料)



利用する資料・情報については、多いものから一般図書38%、専門書22%で、合計すると全体の6割となります。また、サービスの認知度については、千葉県内図書館横断検索や他館からの資料お取り寄せサービスの認知度が高い一方、パスファインダーやTwitter、はつらっライフなびのコーナーや資料貸出の郵送サービスの認知度が低くなっています。さらに、メールレファレンスやデータベース検索、ホームページからの図書予約・貸出期間延長については、認知度の高さに対して利用は低い結果となっています。